

オカピのふるさとを知ろう
「地球の肺」コンゴ盆地について理解を深める

2025年7月27日（日）／ よこはま動物園「ころころログ」にて

世界最大級の熱帯林が広がるアフリカのコンゴ盆地は「地球の片肺」と呼ばれ、気候変動の緩和や生物多様性の保全、人と動物の共通感染症（ズーノーシス）の予防など地球規模の課題解決において極めて重要な役割を担っています。コンゴ盆地を唯一の生息地とするオカピを国内で飼育する数少ない動物園であるよこはま動物園ズーラシアでは2024年7月、10年ぶりに「フラハ」（スワヒリ語で「幸福」）と命名）が誕生しました。また、ズーラシアが所在する横浜市では今年8月、第9回アフリカ開発会議（TICAD9）が開催されます。

このような機会を通じ、アフリカの現状や動物園の取組のみならず、日本が行う国際協力、官民・草の根レベルでの日・アフリカ交流について理解を深めていただけたら幸いです。

講演会 プログラム

- 10:00～ 開会
- 10:10～ 動物園の役割：生物多様性保全の取り組みについて よこはま動物園長 村田 浩一
- 10:20～ オカピの生態とその繁殖について よこはま動物園オカピ飼育担当 藤澤 加悦
- 10:30～ コンゴ盆地熱帯林の重要性、日本との繋がりについて
コンゴ民主共和国環境・持続可能開発省 政策アドバイザー 大仲 幸作
(休憩 10分)
- 10:50～ 「地球の肺」コンゴ盆地の熱帯林の現状と課題について ※同時通訳あり
コンゴ民主共和国キサンガニ大学 教授 コルネイユ・エワンゴ
- 11:30～ コンゴ盆地への日本の協力について
JICA地球環境部森林・自然環境保全グループ自然環境保全第二チーム課長 栗元 優
- 11:40～ 質疑応答 (12:00 終了予定)

午後のプログラム

15時から、オカピ展示場にて「特別ガイド」を行います。オカピの生息地であるコンゴ盆地の写真や解説パネルもご覧いただけます。

協力のお願い

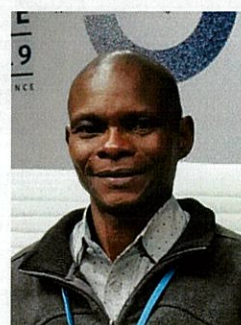
- ・講演中の写真撮影・録音・録画はご遠慮ください。
- ・携帯電話や音の鳴る機器の電源はあらかじめお切りいただくようお願いします。

協賛：森から世界を変えるプラットフォーム / 後援：外務省、環境省、林野庁、横浜市国際局

講演者紹介

●コルネイユ・エワンゴ教授（コンゴ民主共和国キサンガニ大学）

コンゴ民主共和国赤道州出身。アフリカ最大の熱帯林地帯であるコンゴ盆地を代表する森林生態学および植物分類学の専門家。1995年にコンゴ民主共和国キサンガニ大学で生物科学の学士を取得後、2006年に米国ミズーリ大学セントルイス校で生態学・保全生物学の修士号を修了。2010年にはオランダ・ワグeningen大学で森林生態学・森林管理学を専攻し、環境科学で博士号を取得。コンゴ盆地における調査研究と保全活動に長年従事。「環境のノーベル賞」と称されるゴールドマン環境賞（2005年）、Future for Nature 賞（2011年）等、多数の国際環境賞を受賞し、その功績は、研究者の枠を超え世界的に高く評価されている。



現在、キサンガニ大学教授および生物多様性モニタリングセンターのコーディネーターとして活動する傍ら、国際的なコンゴ盆地研究・保全プロジェクトに携わり、気候変動や生物多様性分野における実践と政策支援を推進。

●村田 浩一（よこはま動物園長）

1978年より神戸市立王子動物園勤務。1998年獣医学博士課程修了。2001年より日本大学生物資源科学部動物資源学科勤務（2004年より教授）。2011年によこはま動物園長に就任し現在に至る。

現在、公益社団法人日本動物園水族館協会長、国際自然保護連合（IUCN）専門家グループ委員等を務める。

●藤澤 加悦（よこはま動物園オカピ飼育担当）

2008年公益財団法人横浜市緑の協会入社。2010年よりよこはま動物園勤務。2020年よりオカピの飼育管理を担当し、同年上野動物園からオス個体を迎え入れて以降、オカピの繁殖に取り組み2024年の繁殖につなげた。

●大仲 幸作（コンゴ民主共和国環境・持続可能開発省 JICA 政策アドバイザー）

1999年農林水産省入省。北海道森林管理局、在ケニア日本大使館、農水省国際経済課、マラウイ共和国環境省、林野庁海外林業協力室等を経て、2018年から森林・気候変動対策の政策アドバイザー（JICA 専門家）としてコンゴ民主共和国環境省に勤務。

●栗元 優（JICA 地球環境部森林・自然環境保全グループ第2チーム課長）

2005年 JICA 入構。2013年から JICA アフリカ部で中部アフリカに関わり始め、2017年からコンゴ民主共和国事務所へ赴任。長年コンゴ盆地の環境分野に関わる。現在はアフリカ地域、中南米地域、東欧地域等の自然環境保全事業に従事。

国際協力機構（JICA）の自然環境保全にかかる取組について

世界はかつてない速度で生態系の劣化が進み、自然環境の保全・回復が急務となっています。JICA は、次世代に豊かな自然の恵みを引き継ぐべく、途上国はもちろん国内外のさまざまなパートナーとの対話と協働を促進し、開発協力の成果の拡大を目指しています。詳細は、右二次元バーコードからご覧ください。

